

折り鶴に託された思いを昇華させるための方策について(最終とりまとめ)【概要版】

(折り鶴に託された思いを昇華させるための方策検討委員会／平成 24 年 2 月)

◎ 方策のコンセプト (基本理念)

折り鶴に託された平和への思いを共有し、新たな「思い」として継承

折り鶴を捧げた人々の平和を願う思いが、様々な過程を経て、広島市民をはじめ世界の多くの人々の心に刻まれ、核兵器廃絶と世界恒久平和を願う輪が広がり、さらに、新たな「思い」として継承される方策を目指す。

◎ 取組の方向性

昇華の方法については、特定の方法に固定化せず、次に掲げる方向性の中で、目的や手段、用途などを総合的に勘案しながら取組を推進するとともに、時代のニーズに合わせてリニューアルしていくことが望ましい。

平和への思いの継承、発信

- ・ 被爆の惨状から再生した広島の使命として、世界中の人々の思いのこもった折り鶴を平和のツールとして甦らせ、平和を願うメッセージを発信することにより、折り鶴に託された思いが、さらに大きな普遍的な思いとして広がるような取組を推進する。
- ・ 折り鶴の美しい色や形を活かし、折り鶴寄贈者の思いを目に見える形で分かりやすく伝えることで折り鶴に託された思いを共有し、次世代への被爆体験の継承・伝承につながるような取組を推進する。

地域や立場を超えた心の循環

- ・ 身近な人を大切にするなど広義の意味での平和を学び、訴え、実感できるような取組や、平和への架け橋となるような交流、ESD (社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動) に結び付くような取組を推進する。
- ・ 過去の苦しみを知っている広島だからこそできる恩返し、現代の課題に結び付け将来につながるような新しい循環の創出といった観点から、広島発の国際協力・国際貢献の仕組みを構築する。
- ・ 障害者の就労支援や障害者の社会参加につながるような仕組みの構築や、高齢者などに生きる力や勇気を与えるような活用を図る。

広島発の新たなブランドや観光資源の創出

- ・ デザイン性に優れた折り鶴のロゴを募集・選定し、「昇華」を象徴するマークを広島発の新たなブランドとして浸透・定着させることにより、個々の取組の発信力や価値を高めるとともに、CSR (企業の社会的責任) 重視の企業参画を促進する。
- ・ 折り鶴再生の過程などを修学旅行生や子どもが参加できる折り鶴再生等の体験型プログラムを構築するなど、観光資源としての付加価値を高める。
- ・ 世界恒久平和への祈りを込めた焚き上げや折り鶴のポリウム展示など、メッセージ性が高く、視覚的なインパクトを兼ね備えたシンボリックなイベントの開催に努める。

◎ 取組の進め方

取組を推進するに当たっては、「昇華」のプロセスの範囲や流れを明確にしたうえで、市民をはじめできるだけ多くの人々が主体的に参画できるような環境づくりや、経済性も考慮した持続可能な取組とするための仕組みの構築などに意を用いながら、実効性のある取組として展開していくことが重要である。

市民主体の取組の推進

- ・ 折り鶴に託された思いをより多くの市民が共有し、市民活動として根付くことが重要であり、一定の基準を設けて「昇華」の趣旨に合致する取組の実施主体に折り鶴を託す、象徴的な取組の提案を公募により実施するなど、取組のプロセスへの積極的な市民参画を促進する。
- ・ 平和教育の一環として学校との連携を図るとともに、アジア競技大会時の一館一館運動のような地域に密着した機運の醸成や現在活動している団体のネットワークの活用を図るなど、市民レベルでの活動の輪を広げる。
- ・ 自由な発想で事業の検討や実施・運営を担うボランティアを募集するなど、市民の手によるムーブメントを展開する。
- ・ 障害者就労支援施設や関係団体等と連携し、折り鶴を通じた障害者の社会参加や地域交流を促進する。

持続可能な取組とするための仕組みづくり

- ・ 折り鶴を古紙や再生紙商品などとして売却した資金や寄付金付きの折紙による収益を基金として積み立てるなど、平和貢献事業に活用するためのファンドを創設し、財源として活かす仕組みを検討する。
- ・ 折り鶴の再生やイベントをはじめとして、経済が循環するような手法を積極的に取り入れることにより、市民の意識をより高め、息の長い事業とすることを旨とする。

折り鶴寄贈者等の心情への配慮

- ・ 焚き上げなどの方法により「昇華」する場合は、折り鶴を捧げた子どもたちや被爆者などの気持ちに配慮し、実施方法を慎重に検討する。

◎ 実施方法と効果・課題の検証

市民から募集したアイデア・意見及び事業の試行実施の結果などに基づき、具体的な実施方法を例示するとともに、それぞれの効果と課題を整理すると次表のとおりとなる。

区分	概要	効果	課題
再生紙	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴を溶解し、平和の思いが共有できる物や平和のメッセージの発信につながる物に再生し、希望者や国内外の子どもたちに販売・寄贈する。 寄贈団体などへのお礼状などに活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> メッセージ性を付加することにより、新しく形を変えて平和への思いを広げていくことができる。 再生品の種類や実施方法の工夫などにより、平和の思いを伝える多様な事業を展開することができる。 平和学習のカリキュラムや修学旅行の体験プログラムとして、次世代に被爆体験を継承・伝承することができる。 資源の有効活用を図ることができ、環境啓発にもつながる。 実施方法により、障害者の就労支援や地域産業の活性化などに寄与することができる。 折り鶴を古紙として売却した資金などによるファンドを創設することにより、平和貢献事業としての可能性が広がり、折り鶴再生のための財源の確保も期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 再生処理に先立ち、原則として、糸や止め具など不純物の除去作業などが必要となる。 再生化には相当のコストを要するため、事業協力者や財源の確保を図る必要がある。 再生した物が粗末に扱われることのないよう対策を検討する必要がある。
焚き上げ	<ul style="list-style-type: none"> 平和を祈るセレモニーとして焚き上げを行う。 平和の思いを込めたとんど焼きやキャンプファイヤーなど地域や学校などの協力を得て実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 形ある「折り鶴」が形なき尊い「思い」として昇華されることにより、平和への思いが世界に広がっていくことが期待できる。 広島に定着した一大イベントとして実施すれば、平和のメッセージの大きな発信力となり、観光客の誘致にもつながる。 地域を巻き込むことで、一つ一つの取組は小さくても、市全体として平和意識を高揚する大きなムーブメントを創出することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴を捧げた子どもたちや被爆者などの気持ちに配慮し、実施方法を慎重に検討する必要がある。 火災予防のための必要な準備や、近隣から苦情が出ないような対応など実施に当たっての検討課題が多い。
展示	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設や駅・空港などの交通結節点、企業や商業施設、宿泊施設など人が多く集まる場所に展示する。 国内外の学校、希望する自治体や団体などで展示してもらう。 折り鶴ブースに一定期間展示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広島市民をはじめ、広島に来る機会のない世界の多くの人々にも平和を願う思いを伝えることができる。 様々な地域や場所で展示されることにより、多くの人に平和都市広島を印象付けるとともに、平和について考えてもらう機会が増え、折り鶴を通じた広島の新たなイメージの構築につながる。 メッセージ性と視覚的なインパクトを兼ね備えたシンボリックなイベントとして実施することにより、平和への思いの発信と観光客の誘致につながる。 折り鶴ブースに一定期間展示することにより、折り鶴寄贈者の思いやメッセージを受け止める機会とすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 展示を終了した後の折り鶴については、展示の主催者が責任を持って適切に取り扱う必要がある。 折り鶴の長期保存を前提とする旧日本銀行広島支店の展示は、折り鶴寄贈者の意向を踏まえ、見直す必要がある。
記念品・寄贈	<ul style="list-style-type: none"> 数羽程度に小分けした折り鶴を記念品やお土産として来広者や平和記念式典参列者などに配布・販売する。 学校や来訪のVIP、世界の国や都市などに寄贈する。 	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴の形のまま不特定多数の人の手元に渡ることで、目に見える形で平和の思いを永く共有することができる。 お土産として購入者から家族や友人などに贈られることで平和の思いが繋がりを循環していく。 広島を訪れることができない人にも平和のメッセージを届けることができる。 寄贈先の団体などとの交流の契機となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈された折り鶴が粗末に扱われることのないよう、有償化や配付先の限定など、実施方法を工夫する必要がある。 記念品として加工するための作業が必要となる。 多数の団体や遠方の地域に送付する場合は、相当の輸送費が必要となる。
その他の加工 焼却灰の利用	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴を再生紙以外のものに加工し、記念品やモニュメントとして再生する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有効活用になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 加工技術や商品化などの研究開発や経費の検証など、実現可能性の検討に相当の期間を要する。
焼却処分	<ul style="list-style-type: none"> 再生できない折り鶴や展示などの過程を経た折り鶴を焼却する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大量の折り鶴の処理が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴を捧げた子どもたちや被爆者などの気持ちに配慮し、実施方法を慎重に検討する必要がある。 「昇華」のコンセプトに合致する過程を経て実施する必要がある。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴を活用し、平和への祈りと慰霊を兼ねたイベントを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントに参加し折り鶴に託された思いを受け止めた多くの人々が、平和について考え、行動する契機を得ることになる。 広島発の新たな観光・文化とすることで、地域の活性化や修学旅行・観光客などのビジターの誘致につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短期間のイベントのために相当の労力と経費を要する。
データベース	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴の写真・映像などを寄贈者名とともに記録・公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 折り鶴に託された思いと合わせ、折り鶴を捧げた人々自身やその行為、気持ちを尊重することになる。 誰でもどこでも見られる情報とすることにより、より広く折り鶴に託された思いの共有化を図ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈者の名前やメッセージなどをホームページで公開している現行の「折り鶴データベース」に折り鶴の写真・映像などを付加する場合、膨大な労力を要する。